

(様式1)

自己評価票

作成日 平成24年11月27日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0892800012		
法人名	有限会社 なかよし		
事業所名	グループホーム なかよし	ユニット名	2ユニット
所在地	〒306-0626 茨城県坂東市小山2131-5		
自己評価作成日	平成24年11月27日	評価結果 市町村受理日	平成 年 月 日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報	茨城県福祉サービス振興会のホームページ「介護サービス情報検索」から情報が得られます。
------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成 年 月 日	評価確定日	平成 年 月 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>グループホームでの生活を大切にしながら、屋外への散歩・外出など積極的に行うようにしている。入り口は常に開放し、地域の方が訪ねて来てくださり、自由に交流できるようにしている。また、面会時間を決めない事によりご家族が、いつでも気軽に面会出来るように取り組んでいて、大変好評を得ている。施設の行事に毎年、ご入居者・ご家族・近隣住民の方々との交流を深める意味も含め、地域交流会を行っているが、年々参加者が増えて地域での行事として認識していただけるようになり、楽しみの一つとなっている。また食事に提供する野菜などは、自家菜園で栽培しておりご入居者は、目で見て・触れてみて・味わってみてと、五感を刺激するような支援に取り組んでいる。庭には花壇を設け、「花壇コンクール」に応募し毎回受賞をしている。またクリスマスのイルミネーションも取り入れ、地域の方々共に喜んでくださり好評を得ている。常に日々の暮らしの中で季節感を感じていただけるようにしています。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

--

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
I 理念に基づく運営			
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域密着型サービスの意義を踏まえ、理念を作成し玄関に掲示している。ミーティングや研修会で唱和し意識を高め実践出来るよう取り組むと共に職員は、いつも明るい雰囲気の中で快く入居者・ご家族の話を聞き、全ての人が笑顔あふれる施設作りに努力している。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地区長さん、民生委員さんの協力を得て、年2回地域の方々を招いて交流会を開催している。その際には、地域の方やボランティアの方も催し物を行ってくださり、ご家族も参加しての交流を図っている。自治会にも加入し行事や清掃活動にも参加している。入居者と職員と一緒に散歩することで住民と顔馴染みになり、見守りや声を掛けてくださる。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	交流会や散歩などで顔馴染みとなり、お互いに声を掛け合い認知症の理解も深まるようになってきている。運営推進会議には、行政・地域の代表・ご家族代表の参加があり、その際に認知症・介護のことなど相談、質問について質疑応答の時間を持つようにしている。
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回開催している。毎回入居者代表、ご家族代表、地区長さん、民生員さん、介護福祉課職員、地域包括支援センター職員の参加があり、施設の活動報告をしたり、お互いの意見交換の場としてサービスの質の向上に活かしている。運営推進会議議事録を作成している。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	必要に応じて、市担当者へ電話連絡や訪問を行い入居状況の確認や相談をしている。施設のパンフレットを置いて頂き、地域の方に情報を提供してもらい協力していただいている。
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は、身体拘束の具体的な行為を研修会で話し合い、身体拘束の弊害を理解している。玄関には、身体拘束廃止に向けての方針を掲示している。「話を良く聞いて、寄り添うことにより拘束しないで済む」という施設長の理念のもと玄関、門扉は、施錠せず外出したい方には、意思を尊重し職員が同行したりしている。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員の研修を行い、虐待の理解を深め身体的虐待、心理的虐待などを防止するように、管理者や職員が目を配るようにしている。職員の内面や言動に変化があれば話し合いを行うようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護や成年後見制度について資料を配布し、話し合いしながら研修会を行っている。ご家族の状況に合わせて施設長に相談し社会福祉協議会と連携するようにしている。
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用開始時の契約などは、入居者、ご家族のご希望を充分にお伺いし、自宅での生活、生活パターン、困りごとや不安に感じる事など、アセスメントを行い説明をして理解・納得をしていただけるようにしている。
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会開催時や、面会時、施設の行事の際にも、管理者・職員は、ご家族のご意見やご要望を聴くように努めている。ご家族にアンケートをお願いし集計を行い、問題点・改善点がないか話し合っている。その結果を運営推進会議で報告するようにしている。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長は、職員の個人的事情も含め、常に話し合う事が大切と考え、声をかけている。管理者・主任は、意見を出し易い関係づくりに努めている。その際出た意見は記録している。
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	研修会や話し合いの場を設け、給与、労働時間、不満やストレスを感じないかなどの意見を聞き、常に職員が仕事をしやすい環境を整えるようしている。
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講習会への参加を支援し、施設内研修を実施している。また、職員間でも介助方法や接し方など良い方法を考え話し合いながら、お互いがスキルアップできるようにしている。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	地域施設部会等に参加し勉強会をしている。他施設の方との交流を持ち、お互いの情報交換をしてネットワーク作りをしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居時には、ご本人の話を良く聞いて安心していただけるようにしている。常に、困った事、不安な事、して欲しいことなどを聴きながら、慣れていただけるよう職員との関係作りをしている。
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接や見学・訪問時に、自宅過ごし方や状態、困り事、不安な事などを聞いている。ご家族が自宅で大変だったと思う気持ちに寄り添いながら、良い関係を作るように心掛けている。
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前には、ご本人、ご家族との十分な話し合いで要望、状態にあった支援の方法を考えている。福祉用具、理容サービス、訪問歯科等必要なサービスについても取り入れるようにしている。
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は、入居者に昔の風習や生活の知恵を教えてもらう事により、尊重し寄り添いながら、共に暮らす家族のような関係を築いている。
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族に面会時やお電話で近況をご報告したり、運営推進会議には、ご本人とご家族に出席していただき、活動報告、近況報告をしている。家族会開催時には、ご本人とご家族の団欒の場を設け、絆を大切にするとともに支えていく関係を築いている。
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間には制限はなく、ご本人が大切にしてきた知人、友人、親類の方々には気軽に面会に来ていただき、居室で談笑したり居心地よく過ごしてもらえようとしている。お盆、お彼岸など外出を希望する場合は、ご家族に連絡を取り、ご家族や馴染みの方と過ごす時間を作るようにしている。
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係を理解し、職員が必要に応じて関わり、トラブルにならないようタイミングを図り声掛けしている。お話ができる場を設けたり、一緒に行うレクリエーションなどをして孤立しないようにしている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	ご家族の希望で看取りの入居者がありました。主治医とご家族との連携を行いながら対応しました。ご家族に見守られながら、穏やかに最期をむかえたことに感謝していただき、今も立ち寄ってくださいます。退所後も相談や来訪を受け入れるようにして、他のサービスが必要な場合にはサービスの紹介を行うようにしている。
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	職員は、常に声を掛けたり話を良く聞き、表情や日常会話などから本人の意向など伝えやすい環境づくりに心掛け、把握できるように努めている。ご家族の面会時には、話を聞き、家に居た時の事や本人の意向、希望などの情報を得るようにしている。
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人、ご家族、入居前のケアマネジャーの方などから、生活歴、馴染みの暮らし方、生活環境、サービス利用の経過等情報収集し、ご家族や職員と共有しながら支援している。
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	バイタルチェックを行い、職員全員が心身の状態把握に努めるようにしている。表情・発言・態度などから、体調や様子の変化に気づき対応できるように心掛けている。一人ひとりの状態に合わせた支援に取り組んでいる。
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時には、ご家族と本人の意向を良く聴き、課題・ケア内容を考え計画を立てるようにしている。入居後も日々の生活の中から本人ご家族等と相談し、職員の気づいたことや意見を取り入れ介護計画を作成し同意を得ている。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録の記入の際、バイタル・食事量・排泄チェック・ケアの実践・気づきや状態を記入し、職員と話し合い情報を共有しながら、日々の生活に取り入れ活かすようにし、介護計画の見直しなどにも反映するようにしている。
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人、ご家族の状況・希望に合わせてご家族との外出・外泊などを支援している。面会時間を決めず、心配な時などは宿泊できる体制も整えている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	楽器の演奏・フラダンス・そば打ち・地区の主婦の方々の踊りなど様々なボランティアとの交流をしている。また、主治医の先生が歌を披露してくださったりと、馴染みの方の来訪を入居者の方々はとても喜んでいる。職員と散歩する事により、ご近所の方と馴染みとなり、散歩途中でのお話を楽しみにしている。
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に本人、ご家族等に協力医院を主治医とすることを説明し、同意を受けている。週1回の訪問診療や状態変化や緊急時には24時間連絡が取れる体制となっている。他専門医の受診は、ご家族等の支援をお願いしているが、ご家族等の事情に応じて付き添えるよう支援している。
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	施設内の看護職員に、入居者の日々の健康状態や変化・服薬したり、連携を図り対応できる体制をとっている。
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	主治医以外にも、協力医院としての医療機関も定めている。入院処置が必要となれば、主治医と連携をとり対応することになっている。また、早期に退院できるように医療機関の医師・相談員とうと連携し、必要に応じ入院先に出向きリハビリの指導・退院後の注意点等を伺い、受け入れの体制を整えるようにしている。
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、重度化や看取りに向けた施設の対応方針を作成するとともに、ご家族等に説明している。終末期の段階になった時には、ご家族等に希望を再確認し、希望に添った終末期を送れるようにしている。看取りに向けて主治医と24時間の連絡体制を築いている。また、看取りに向けた職員の意思と知識習得のため看護師を交え研修会を行っている。
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時や事故発生時に備えて、応急処置・初期対応が実践できるよう研修などを行っている。
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署立会いのもと年2回の消防訓練を実施し、近隣住民の協力を得ている。災害時に備え発電機・飲料水・食糧・卓上コンロ・簡易トイレ・懐中電灯・救急用品・カイロ等常備している。消防署の指導にはすぐに対応し、建物外部にセンサーライトや音で知らせる警報機を設置し、緊急時に地域の協力が得られるようにした。外部避難通路にも安全のため手すりを設置した。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	職員は、入居者を人生の先輩として尊重し、昔の風習や生活の知恵・節の行事に関する事など聞くようにしている。一人ひとりに対して言葉遣いや対応に気をつけ、プライバシーを損ねないよう努めている。入居者の書類は、鍵がかけられる事務所に保管している。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者それぞれに合った声掛けや対応を心掛け「なにがしたいのか」「なにを望んでいるのか」職員と共に思いを理解し、本人が表現しやすい環境づくりに努めている。
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調、状態に合わせて本人の希望を大切にしながら、入居者それぞれのペースでゆったりと過ごせるよう支援している。
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者と一緒に選んだ洋服を着て頂いたり、本人、ご家族の希望により、洋服を買いに出掛けたり、地域の理容店や美容室に出掛けパーマや毛染めをしたり、訪問理容サービスの利用も行っている。その方らしい、身だしなみやおしゃれを楽しむ事ができるよう支援している。
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	自家菜園で収穫した季節の野菜を食材に取り入れ、どのような料理にしたら良いか一緒に考え、得意だった料理を手伝っていただいたり、漬物を漬けていただいたりしている。作る楽しみ・食べる楽しみを大切にして、会話しながら楽しく食事できるよう支援している。
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養士や職員が、入居者の状態、好みに配慮し、美味しく食事が摂れバランスの良いメニューを考えている。水分摂取は、状態に合わせて回数を増やしたり、飲み物を変えたり工夫しながら摂取していただいている。
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアで介助し、義歯の洗浄、歯磨きはできるだけご自分でやっていただけるようにしている。口腔内の清潔を保ち、状態を確認し、必要があれば訪問歯科に診察してもらう。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	介護記録で排泄パターンや生活のリズムを把握しトイレ誘導を行い、トイレでの排泄を勧めている。立位が困難な方もトイレで排泄ができるよう職員が2人介助で行っている。
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	自家菜園で収穫した野菜を中心に、食事メニューに取り入れ、食物繊維を多く摂取していただけるようにしている。多目の水分補給とヨーグルト・バナナなどを勧めている。また、体操・散歩・生活リハビリをして予防に努めている。
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週3回となっているが、毎日用意し入居者の体調・希望に応じて対応している。菖蒲湯・ゆず湯など入浴を楽しんでもらえるようにしている。医師の指示により終末期であっても、できるだけ湯船に入ってもらい2人介助で行っている。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	適度な運動やレクリエーションや散歩などで夜間の睡眠がとれるようにしている。日中も部屋で休んだり、テレビを見ながらソファで横になって休んでいる。各部屋の室温は、本人が過ごしやすい室温にしている。
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師からの十分な説明と薬剤師との連携をしている。薬の作用、副作用を理解し服薬介助、服薬確認、服薬後の確認を行っている。薬が変更されたときには、ご家族にも伝え、職員も把握するようにしている。
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	自家菜園で収穫した野菜の下ごしらえや、漬物が好きな方には漬けて頂いたりしている。花壇の手入れもやり方を教えてもらいながら、一緒にしている。洗濯物も出来るだけ自分の物はたたむように勧めている。誕生会のケーキは、デコレーションしてもらい喜んで頂いている。カラオケや散歩も楽しみの一つとなっている。
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	希望・体調・天候に合わせ、散歩に出掛け地域の方と触れ合う機会を作っている。庭に出て花を見ながらお茶を飲んだりしている。季節行事の花見・部落の盆踊りなど職員が同行し、その際には外食をしたりしている。帰宅・外出の際には、ご家族の協力を得ながら支援している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価
			実施状況
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>金銭管理の出来る方は、自分で管理し買い物・美容院の支払い等、ご家族の了解のもと本人がされている。出来ない方は、必要に応じてご家族にお願いしたり、施設で立替えるなどの支援をしている。</p>
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>本人が、ご家族や知人等に電話をかけたいと希望があれば事務所の電話を使っていたりしている。手紙のお返事を書いていただき、離れたご家族とのやり取りが出来る様に支援している。また、行事のお知らせには、本人に手紙を書いていただき一緒に同封している。</p>
52	19	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関・居間・トイレ・食堂には、庭で咲いた季節の花を絶やさないように生け、廊下・食堂の壁には行事の写真などを飾っている。また金魚・熱帯魚や犬を飼い癒しの一つとなっている。季節を感じて頂けよう、こいのぼりやクリスマスのイルミネーションも取り入れている。玄関・食堂に加湿器を置き湿度に配慮したり、音楽を流し和みの空間を得られるようにしている。</p>
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>	<p>居室内で趣味の時間を過ごしたり、面会の方が来たときは、部屋でゆっくり気兼ねなく過ごしていただいている。気の合う方を部屋に招いて、お茶を飲みお話をしたり、ロビー・廊下に櫛の椅子を置きそこで、お話を楽しんだりしている。</p>
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>居室には、床暖房を備えている。ご家族の写真飾ったり、馴染みの家具、テレビなどを、ご家族と相談しながらおかれている。亡きご主人の写真を飾られて、お水・お花を供える方もいる。</p>
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>施設内部は、段差がなく玄関・トイレ・廊下・食堂には手すりを設置している。「車椅子使用を出来るだけしない」を目標に環境を活かし時間がかかっても、筋力が低下しないようできることは、見守りながら行っていただくよう支援している。</p>

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○ 1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働けている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない